



統計でわかる！

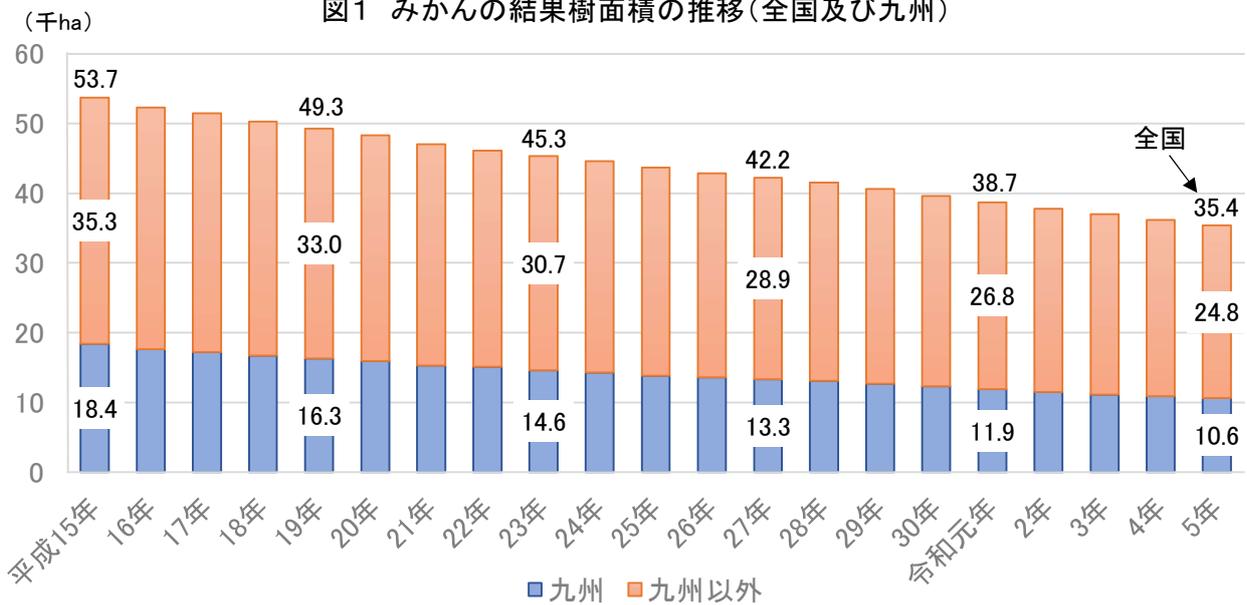
Vol.1 令和6年6月

九州のみかん



- 令和5年産みかんの全国の結果樹面積は3万5,400ha、九州は1万600haとなっており、九州が全国の約3割を占めている。
結果樹面積の推移をみると、20年前に比べ全国では34%減少し、九州では42%減少している。

図1 みかんの結果樹面積の推移(全国及び九州)



注：結果樹面積とは、栽培面積のうち生産者が当該年産の果実を収穫するために結実させた面積をいう。
資料：農林水産省統計部「作物統計調査」（以下同じ。）。

- 九州の収穫量は全国の31%を占めている。九州内の割合をみると熊本県が38%、長崎県が21%、佐賀県が19%を占めており、この3県で九州全体の約8割となっている。

図2 令和5年産全国における収穫量の割合

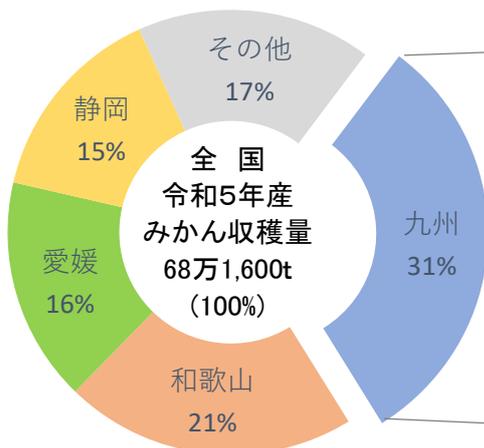
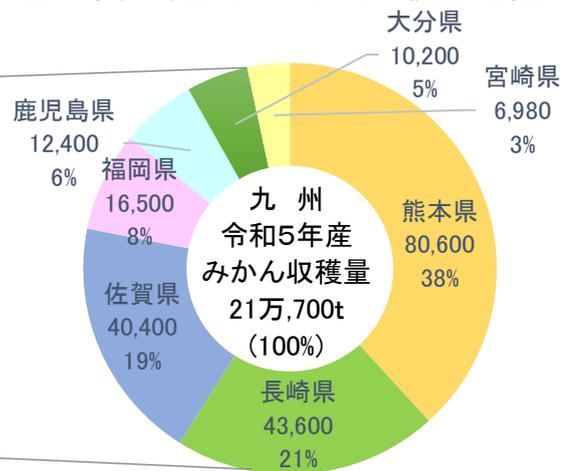
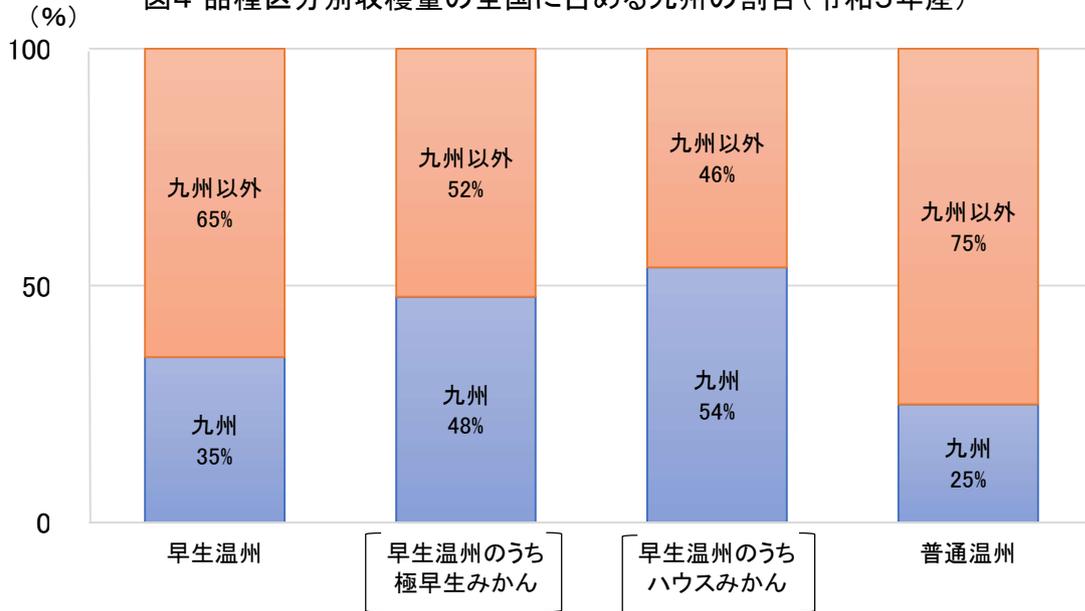


図3 令和5年産九州における収穫量の割合



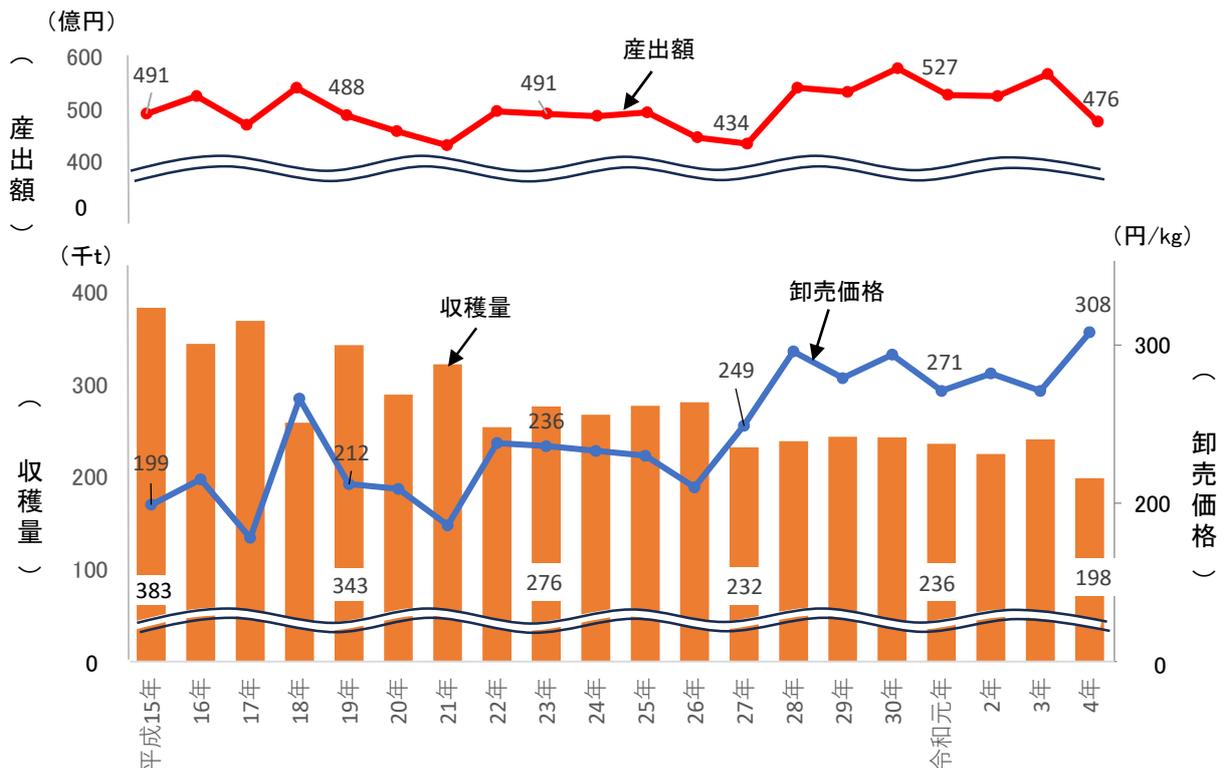
○ 品種区分別収穫量の全国に占める九州の割合は、早生温州では35%、普通温州では25%となっている。早生温州の中でも早期に出荷される極早生みかん及びハウスみかんでは九州の割合がさらに高くなっている。

図4 品種区分別収穫量の全国に占める九州の割合(令和5年産)



○ 約20年前と比較し、収穫量は減少して推移しているが、近年の卸売価格は上昇している。その結果、産出額は年による増減はあるものの横ばいとなっている。

図5 みかんの収穫量、卸売価格及び産出額の推移(九州)



資料：農林水産省統計部「生産農業所得統計」「青果物卸売市場調査報告(産地別)」

注：卸売平均単価は果実の主要消費地域別・産地別の卸売数量及び卸売価格の九州各県分を集計